



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子
児童数 男子488名 女子461名 計949名

TEL (048)222-4383

FAX (048)222-9388

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子



塔組みは木組み 木組みは木の癖組み ～「木に学べ」より～

校長 石井 宏明

10、11月の学年体育大会におきましては、保護者・地域の皆様に校庭を囲むようにお集まりいただき、子供たちに温かい(熱い?)声援をお送りいただき誠にありがとうございました。

分散型ではありましたが、体育の学習の成果を皆様に披露する機会をつくることができましたのも、これまでのご家庭での健康管理、生活習慣づくり、感染症対策や学校行事に対するご理解ご協力の賜物と感じております。紙面上での御礼となることをお許してください。

「塔組は木組み、木組みは木の癖組み、木の癖組みは人組み、人組みは人の心組み」

「塔を建てるには、木のくせを見抜いてうまく組まなくてはなりません、木のくせをうまく組むためには、人(職人)の心を組まなあきません。」

これは、飛鳥時代から受け継がれていた寺院建築の技術を後世に伝え、「法隆寺の鬼」「最後の宮大工棟梁」と称され、法隆寺の大修理や薬師寺の伽藍復興に一生を捧げた、西岡 常一氏の言葉です。

西岡氏は、「木にはそれぞれ癖があり、一本一本違います。産地によって、また同じ山でも斜面によって変わります。まっすぐ伸びる木もあれば、ねじれる木もある。材質も、堅い、粘りがあると様々です。木も人間と同じ生き物です。今の時代、何でも規格を決めて、それに合わせようとする。合わないものは切り捨ててしまう。人間の扱いも同じだと思います。法隆寺が千年の歴史を保っているのも、みなクセ木を使って建築しているからです。」

「建物は良い木ばかりでは建たない。北側で育った「アテ」という木がある。日当たりの悪い場所に使うと、何百年も我慢する良い木になる。」

さらには、「様々な環境で育ったクセのある人たちをうまく組み合わせるとまとめていかなければ、大勢の人を必要とする仕事はできない。まとめる力量のない匠長はその座を去るべきだ」とも述べています。

人を己だけの価値観、尺度で測り、良し悪しを決めつけるのではなく、どれも素晴らしい一つの個性として捉え、それを尊重し、生かしていくこと、さらにそれをつなぎ、まとめ上げていくことが大切だ、後世にまで残る仕事だ、と改めて教えられた気がいたします。

「チームワーク」「和」は、「和を以って貴しと為す」(「十七条憲法」聖徳太子)という、昔からの日本人のよさだと考えております。

「未来を拓く」しわすだっ子たちも、それぞれのクラスで一人一人のよさを引き出し合い、発揮し合い、磨き合うチームでいてほしいと願っております。

子供たちをどう組んでいくのが各担任の、教職員をどう組んでいくのが校長の腕の見せ所になりますね。(自らハードルを上げてしまった)

*表題左のイラストは「SKY 擬人化(サンタ ver.)」【作絵 鈴木ひかり(6年3組)さん】です。